

小児生活習慣病予防のための体組成測定に関する疫学研究 ～発育・発達期における味覚の認知能力と体組成の関係～

研究の実施体制

研究責任者： 藤田 裕規（近畿大学医学部公衆衛生学教室・講師）
研究分担者： 甲田 勝康（関西医科大学 衛生公衆衛生学講座・教授）
伊木 雅之（近畿大学医学部公衆衛生学教室・教授）
中村 晴信（神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授）

研究の背景

虚血性心疾患や脳血管疾患さらに骨粗鬆症などの疾患は、小児期から成人期に至る長年の生活習慣の蓄積によって生じます。この生活習慣の形成には学齢期における健康教育や生活指導が影響します。

生活習慣の一つとして食習慣があります。脂肪食や糖の過度の摂取は健康に好ましくない影響を与えると考えられています。小児期において食習慣を決める要因として味覚が考えられ、味覚は小児期において食物を選択する主要な決定因子であり、食物の好みや摂取量と関係していることが言われています。このことから、味覚はヒトの体脂肪量や骨量に影響を及ぼす可能性があると考えられます。そこで、本研究において、味覚と体組成の関連を明確にすることにより、小児生活習慣病予防政策において優れた味覚を身に着ける対策が必要であるエビデンスを確立することは、成人期の生活習慣病予防対策において重要な意義をもつと考えています。

研究の目的・方法

本研究の目的は、各園・学校とその園児・児童・生徒に「小児生活習慣病予防のための体組成測定調査」を呼びかけ、学校単位でのポピュレーションベースの体組成データを収集し、体組成の性別・年齢別標準値を作成すると共に、体組成と発達や他の因子との関係について検討することです。

研究の対象と研究方法

対象は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校とそこに在籍する子どもたち（本人および保護者の同意の得られた者、卒業生を含む）です。

研究方法は以下の通りです。

- 研究参加に文書で同意した子どもたちの体組成、味覚を測定する。
- 身長、体重、腹囲、血圧の測定を行う。
- 過去の学校での定期健診の結果、対象者の乳幼児健診の結果、学校健診や新体力テストの結果を利用する。
- アンケート調査を行い、運動・遊び・ゲーム・食事などの生活習慣、現在や過去の病気の有無、過去の発育状態、母親の体格の情報を入手する。

研究期間は2030年3月31日までとし、全ての試料・情報は研究終了後の5年後にシュレッダー処理、あるいは焼却処分、あるいは施設基準に従って廃棄します。

個人情報の扱いと保存資料の研究利用の拒否

本研究で得られた個人情報は、近畿大学医学部公衆衛生学教室および学校で厳重に管理、保管されています。研究結果は、ご本人の健康管理の他、市町村の予防対策や医学の発展に役立てるために報告書や論文として公表します。しかし、その場合にも個人情報は保護されています。なお、「小児生活習慣病予防のための体組成測定調査」の受診は任意であり、さらに、現在までに近畿大学に保管されている過去の研究データが、今後研究に用いられることについてご了承いただけなくなった場合には、該当する研究資料を廃棄しますので、下記の連絡先までお申出ください。なお、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので、その場合はお申出下さい。

研究計画変更履歴

2019年5月

- 研究期間の延長：当初の研究期間では、本研究目的を達することが困難と予想されるため、研究期間を2020年から2030年3月31日に延長しました。

連絡先

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

近畿大学医学部公衆衛生学教室

TEL 072-366-0221 (内線 3272)

FAX 072-367-8262

研究責任者：藤田 裕規